

小高区での英語教育(フォニックス)の進捗

1 事業概要

小中学校における英語学習効果を高めるため、英語の音と文字の関係性を学ぶフォニックス学習を実施。

令和4年度から小高小学校及びおだか認定こども園をモデルにスタートした。

2 実施方法

日本においてフォニックス学習を先進的に取り組んできた(株)松香フォニックスが大阪府と協力して作成した小学生向けモジュール教材「SWITCH ON!」を使用。

小高小では、毎週水曜日と金曜日の週2回、朝・お昼の時間に、教材を使ったモジュール授業を実施。(先生はファシリテーター)

おだか認定こども園では、毎週1回ALTによるえいご遊びの時間に実施。

3 実施学年

小高小全学年、おだか認定こども園年長児

4 実施効果

フォニックス学習は低学年から、学齢に応じて段階的に進めていくものであり、明確な英語力向上の成果が見られるまでには時間を要するが、小高小児童の英語に対する取り組み方は着実に変わってきている。

また、おだか認定こども園においてもえいご遊びと合わせて楽しんで取り組んでいる。

5 今後の展開

令和5年度から、言語脳が発達する幼児期に、日本語にはない英語の音を遊びを通して学ぶ「えいご発音あそび」の取り組みを行っている。5月から約半年間幼稚園・保育園の先生に英語発音の基礎を教え、10月23日(月)からおだか認定こども園等で園児への指導をスタートした。

「えいご発音あそび」は、日本語にはない英語の音を聞き分ける力、発音する力をつけるもので、小学校でのフォニックス学習へ効果的につなげることができる。

また、学校図書館に英語の図書を充実させ、フォニックスから多読へ繋げて、さらなる英語力の向上を図っていく。

学校教育取組施策 グローバル社会における人材育成

社会の急速なグローバル化の進展を踏まえ、国際社会の平和と発展に寄与する態度、豊かな語学力、異なる文化・価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力、新しい価値を創造する能力、社会貢献、国際貢献の精神等を身に付けて様々な分野・地域で国際社会の一員として活躍できる人材を育成する。

【施策1 外国語教育充実の取組】

フォニックス学習

英語の音と文字の関係性を学ぶフォニックス学習を市内全小学校で実施

（R4～5は小高小・おだか認定こども園でモデル実施）

えいご発音あそび®

言語脳が発達する幼児期に、日本語にはない英語の音を遊びを通して学ぶ

「えいご発音あそび®」を市内幼稚園・保育園で実施（R5は市内の一部の園でモデル実施）

英検受験料支援

市内全中学生を対象に、英検を受験する費用を助成

（R4 中3生英検3級（CEFR A1）以上取得率 **28.9%**（全国平均27.3%））

ALT（外国語指導助手）を多数配置（11名（約2校に1名））

ブリティッシュヒルズ教員研修（小学校教員）

フォニックス学習の様子（小高小）



えいご発音あそびの様子（石岡幼稚園）



【施策2 国際理解教育の取組】

中学生海外研修

中学2年生を対象。海外研修を通して広い視野を持った人材を育成。

R5：オーストラリア及びシンガポールで実施

高校生は姉妹都市（ペンドルトン）交流を実施（商工観光部所管）

ブリティッシュヒルズ研修

中1生全員によるブリティッシュヒルズ研修を実施

オーストラリア研修、報告会の様子

